

道東太平洋沖の流速場（2018年12月 海況速報No.185 付記）

2018/12/20

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。（水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。）

親潮： 親潮の本流（O1：流速40～60cm/s程度（100m深））は根室の沖合を西南西に流れており、そのまま岸に沿って襟裳岬の東側を南下する流路をとっています（図1）。本流周辺の沖側には、100m深水温5℃以下の親潮水が分布しています。一方で岸側には、親潮水に比べてやや水温が高い（100m深水温6～7℃）オホーツク海由来と考えられる水が分布し、それらの一部は襟裳岬西側の日高沿岸まで到達しています。

暖水： 津軽海峡から流出した津軽暖流水（水温10℃程度）はまっすぐ東に延びています。襟裳岬の東側には暖水は分布していません。

今後の見通し： 現時点でも道東沖には親潮が流れており、南下を阻止する暖水塊などは北海道付近では観測されておりません。12月以降は例年ならば親潮面積は拡大する季節ですので、今後も親潮が岸に沿って流れる構造が維持されると考えられます。

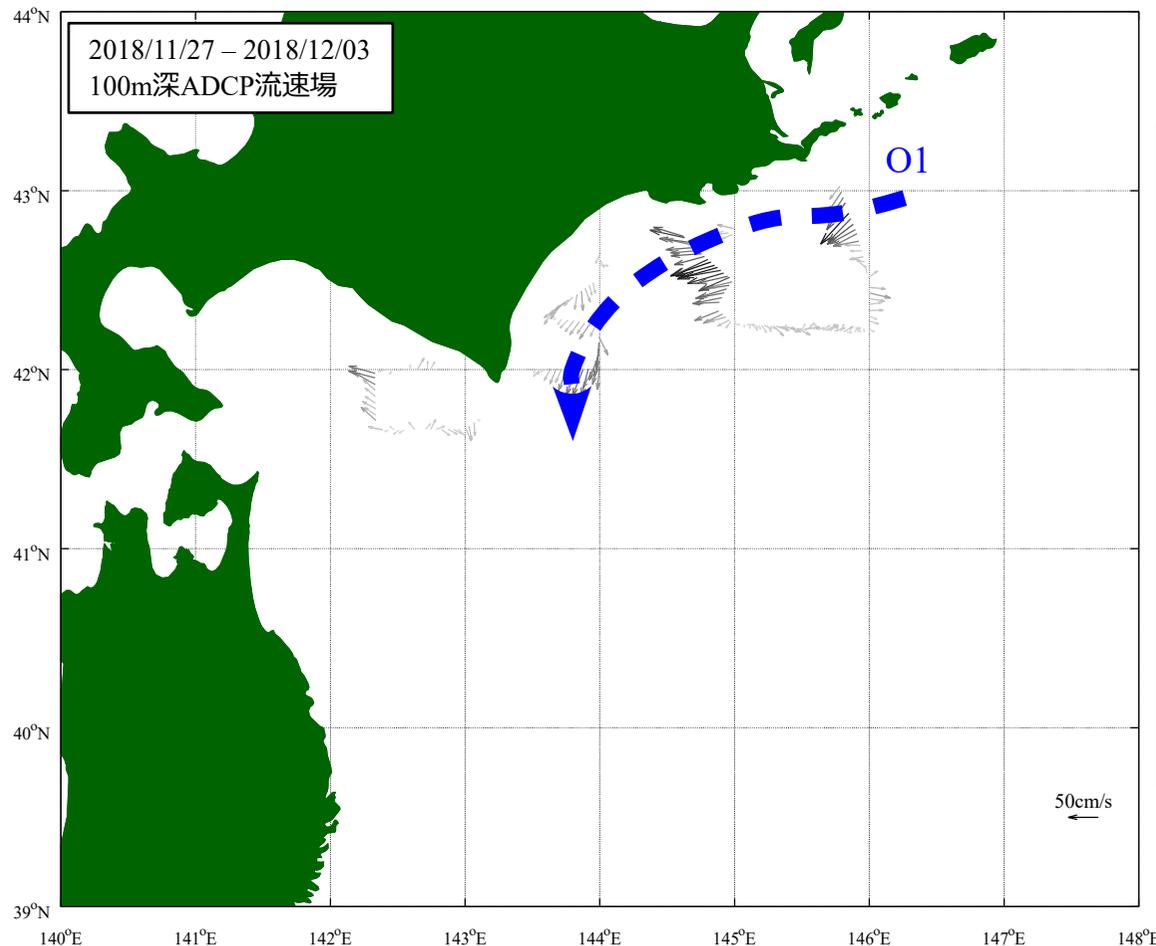


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さでその濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）の流れの模式図

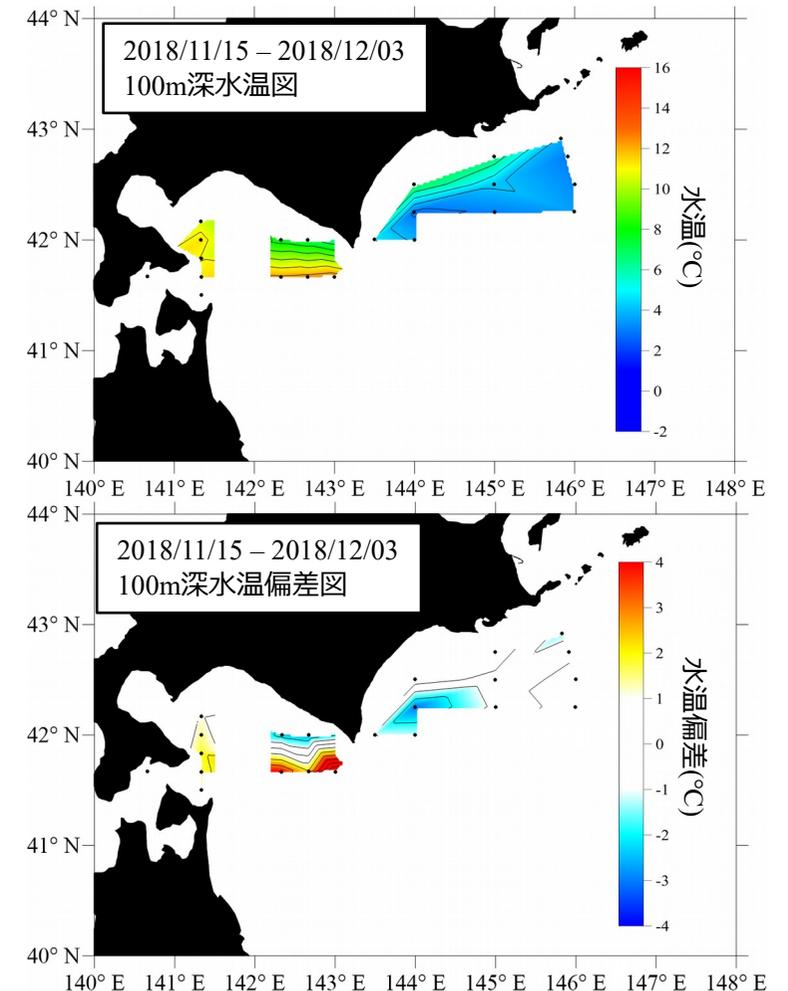


図2（上）100m深水温図
（下）100m深水温偏差図（1989～2008年平均からの差）